

練馬区外郭団体中期経営計画の達成状況

団体名	公益財団法人練馬区環境まちづくり公社	団体所管課	環境部環境課
-----	--------------------	-------	--------

経営計画期間	令和 6 年度 ~ 8 年度
--------	----------------

団体の目指す将来像

環境まちづくりに関する事業を総合的・一体的に展開し、地域における区民協働の取組を一層進め、安全で快適な、みどりあふれる「ねりま」の実現に寄与する

取り組みを進めるうえでの「基本的方針」

I みどりまちづくり事業

- 1 みどりを育むムーブメントの輪を広げる
- 2 区民との協働によるまちづくりを広げる

II 自転車の適正利用事業

- 1 放置自転車対策の推進
- 2 利用者サービスの拡充
- 3 自主事業の展開

III 資源循環・可燃ごみ収集事業

- 1 区の業務委託方針に的確に対応する
- 2 社員の資質の向上と自律した運営を目指す

IV 地球温暖化対策事業

- 1 啓発事業の強化
- 2 地域活動団体との協働
- 3 事業者への支援

V 経営基盤

- 1 組織を強くする
- 2 人を活かす

区が外郭団体に求めるもの

- ・区政の一翼を担うパートナーとしての役割を認識し、区とまちづくりの目標を共有し、常に連携をとりながら、環境とまちづくりに関する事業を着実に推進すること。
- ・安定的かつ継続的な事業推進のため、必要な人材を確保し、その育成、適正な人員管理に努めること。

達成状況の評価

外郭団体は、経営計画の取組や達成状況を毎年度、評価する。団体が行う達成状況の評価は、つぎの3段階で評価する。

- 「A」 計画以上に進んだもの
- 「B」 概ね計画どおりのもの
- 「C」 計画どおりに進んでいないもの

団体所管課の評価

団体所管課は、年度終了後、団体の取組や達成状況などから、年度の評価を行う。

事業1	みどりまちづくり事業
取組内容	①みどりを育むムーブメントの輪を広げる ②区民との協働によるまちづくりを広げる

目標①-1	つながるカレッジねりまみどり分野運営			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	講座運営	講座運営	講座運営
実績	講座運営	講座運営 ガーデナーコース 4期 ねりまの森管理コース3期	講座運営 ガーデナーコース5期 (フォローアップ講座初開催) ねりまの森管理コース4期	
団体の達成 状況の評価	—	A	B	
備考	—	- 両コースとも90%以上の高い受講修了率を達成 - 受講者満足度は100%であり高い評価を確保 - 修了後はほぼ全員が区民活動に参加	- 修了率はガーデナーコース(88%)、ねりまの森管理コース(82%)と高い受講修了率を維持 - 受講者満足度は100%であり高い評価を確保 - 修了後はほぼ全員が区民活動に参加 - ガーデナーコースの講座卒業生等へ向けて、フォローアップ講座を初めて実施	
目標①-2	練馬みどりの人材バンク運用			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	紹介累計120件	紹介累計160件	紹介累計200件
実績	紹介累計80件	紹介累計235件 (R6:155件)	紹介累計351件 (R7:116件) 地区まちづくりや、落ち葉清掃活動との連動による区民協働の拡大	
団体の達成 状況の評価	—	A	A	
備考	—	ボランティアへの情報提供の強化などによる紹介件数大幅増	- 活動やイベント情報を掲載した「2025落ち葉ひろいin Nerima」を作成し、人材バンクを通じて、情報提供に努めた。 - 地域で主体的に活動する江古田のまちづくり活動と連動させることにより、紹介件数の増加につなげた。	

目標①-3	憩いの森等の区民活動の拡充			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	働きかけ (仮称)憩いの森 こどもフェスタの実施 団体交流会実施	働きかけ 充実 実施	働きかけ 充実 実施
実績	区民管理 11か所 — 団体交流会実施	区民管理 12か所(1か所増) ねりまの森こども フェスタの初開催 団体交流会開催	区民管理 13か所(1か所増) ねりまの森こども フェスタの開催 団体交流会開催	
団体の達成 状況の評価	—	A	A	
備考	—	・憩いの森の区民管理は1か所増に加え、令和7年4月から更に1か所増 ・ねりまの森こどもフェスタは8会場でイベントを12回開催(延1,188名参加) ・団体交流会は7団体23名の参加	・憩いの森の区民管理は令和7年4月から新たに1箇所を追加 ・ねりまの森こどもフェスタは7会場でイベントを9回開催(雨天中止1回)(延べ461名参加) ・新たに憩いの森等に森に関するクイズを掲示するクイズラリーを11か所で実施(延べ176名参加) ・団体交流会は11団体28名の参加	
目標①-4	区民参加による落ち葉清掃活動の拡充			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	清掃活動実施 運営サポーター の育成・運営へ の参加の促進	実施 育成・促進	実施 育成・促進
実績	清掃活動実施	清掃活動実施 運営サポーター制度 本格実施	清掃活動実施 運営サポーター制度 1か所増	
団体の達成 状況の評価	—	B	A	
備考	—	・落ち葉清掃活動(6か所、24回、延べ258名参加) ・運営サポーター(2か所、延べ34名参加)	・落ち葉清掃活動(6か所、19回(雨天中止5回)、延べ217名参加) ・運営サポーター参加箇所を1か所追加(3か所、延べ33名参加) ・地域団体が主催する落ち葉掃き事業を人材バンク等で紹介し、落ち葉清掃のすそ野拡大に努めた	

目標②-1	まちづくり活動に係る相談対応・育成支援機能の強化			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	相談機能の強化 まちづくり活動助成制度 の運用・検証・見直し	相談機能の強化 見直し後の制度の運用	相談機能の検証 見直し後の制度の運用 ・検証
実績	相談対応の改善に向けた 検討 まちづくり活動助成制度の 運用	相談対応の改善 まちづくり活動助成制度 の運用・検証・見直し	相談対応の改善 助成見直し後のまちづくり 活動助成制度の運用	
団体の達成 状況の評価	—	B	A	
備考	—	相談対応の改善として、相 談内容の記録・集積に加え、 分析を開始。Zoomを含め、 相談対応手法を多様化	- 相談内容の記録・集積・分 析を継続 - まちづくり活動助成の制度 を見直し、計上できる助成 項目の幅を広げたことで、 多くの団体が有効的に助 成金を利用することができ た - 前年度を上回る団体の応 募有	
目標②-2	地域組織との協働による地区まちづくりの推進			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	活動方針の共有 まちづくり条例の制度 活用に向けた課題整理	活動方針の共有 課題整理	活動方針に基づく地区 まちづくり活動の推進 活用検討
実績	活動の支援 活動方針の検討	活動方針の共有 活動の支援 まちづくり条例の制度 活用に向けた課題 整理・活用開始	活動の継続支援 まちづくり条例等の 運用に向けた課題整理 ・連携の強化	
団体の達成 状況の評価	—	A	B	
備考	—	- 地区ごとの特性に応じた活 動方針を定め、団体やセン ター等で共有、必要な支援 を実施。 - まちづくり条例に基づく、施 設管理型地区まちづくり準 備会の登録に向けて課題 の整理を進め、やくも公 園が準備会として登録(施 設管理型地区まちづくり準 備会の登録は2件目)	- 地区特性に応じた活動方 針をもとに、必要な支援を 継続 - まちづくり条例に基づく、施 設管理型地区まちづくり準 備会(やくも公園)や、農の 風景育成地区(高松地区・ 南大泉地区)において、区 所管課や地域団体との連 携を深め、事業推進に向 けた課題等を共有	

目標②-3	まちづくりに関する調査研究機能の強化			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	大学連携制度(案)の 試行・検証 研究発表会の開催	検証結果を反映した大学 連携制度(案)の構築 開催	大学連携制度の運用 開催
実績	大学研究室へのヒアリング 大学連携モデル事業の試 行 研究発表会の開催	大学連携制度の 試行・検証 3件 研究発表会の開催 10件	大学連携制度の 試行・検証 7件 (R8まで試行を延長) 研究発表会の開催 17件	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	- 一般公募による大学連携制度の試行3件 - 大学連携3件を含む10件の研究発表会を開催 - アンケートによる制度検証の実施	- 前年度のアンケート結果を踏まえ、早期に募集開始 - 助成対象となる7件を含め、17件の研究発表を実施 - R8まで試行を延長し、効果的な事業の実施方法を検討	

取組内容の評価(令和6年度)	
団体	つながるカレッジは、講座修了率、満足度ともに非常に高い結果となった。また、多くの修了生に活動先を紹介した。練馬みどりの人材バンクは、ボランティアと団体の紹介累計件数の目標を大きく上回る結果となった。落ち葉清掃活動は、民有地のみどりを地域で守り育てる活動につながり、保護樹林等を維持管理している所有者の負担を軽減することができた。さらに、区民の主体的な活動につなげていくため「運営サポーター制度」を本格実施した。各事業を通してみどりの活動にかかわる区民が増え、協働によるみどりを育むムーブメントの輪が広がっている。 公社独自のまちづくり活動助成事業は、より使いやすい制度とするため見直しを実施。地区まちづくりは、各地区毎で活動方針を共有した。特にやくも公園(小竹町)では、まちづくり活動を支援する中で課題の整理を進め、条例に基づく施設管理型地区まちづくり準備会として登録された。まちづくりに関する調査研究は、一般公募による大学連携を3大学と試行した。試行結果を踏まえ引き続き制度構築を進める。
事業 所管課	中期経営計画に基づき、つながるカレッジねりま、練馬みどりの人材バンク、憩いの森等の区民活動や落ち葉清掃活動の拡充など、みどりを育むムーブメントの輪を広げるための各事業を着実に遂行した。 6年度の新規事業として取り組んだ「ねりまの森こどもフェスタ」や「落ち葉清掃活動における運営サポーターの育成」についても、公社がこれまで培った専門性やノウハウなどを十分に発揮し、大きな成果を上げることができた。 新たなノウハウの蓄積により、区民協働の更なる充実・発展に向けた取組、効果的・効率的な事業展開を期待する。 まちづくり事業については、まちづくりを担う団体・組織のニーズに即した、地道で丁寧な育成・支援が実現されている。また、大学連携制度の試行は、区が有するまちとしての可能性の発掘に繋がりがつつある。 引き続き、中間支援組織としてのバランス感覚を発揮しながら、区民との協働に向けた取組を期待する。

取組内容の評価(令和7年度)	
団体	つながるカレッジは、引き続き講座修了率、満足度ともに非常に高い結果となり、多くの修了生に活動先を紹介した。加えて、ガーデナーコース卒業生等へのフォローアップ講座(2回)を初めて実施した。憩いの森は働きかけの結果、管理団体が1団体増加した。ねりまの森こどもフェスタとあわせ、クイズラリーを初めて実施し、地域の憩いの憩や管理団体の活動を多くの区民に知ってもらうきっかけとなった。活動やイベント情報を掲載した「2025落ち葉ひろいin Nerima」を初めて作成するなど、ボランティアへの情報提供の充実に努め、みどりの人材バンクではボランティアと団体紹介(マッチング)の累計件数が目標を上回る結果となった。さらに江古田のまちづくりと連携しながら、参加者の増加とみどりを守り育てる活動を広げた。落ち葉清掃活動は、民有地のみどりを地域で守り育てる活動が広がり「運営サポーター制度」の活動が1か所増加した。各事業におけるこうした様々な取組により、みどりを育むムーブメントの輪が広がっている。 公社独自のまちづくり活動助成事業を令和7年度に見直し、より使いやすい制度として申請団体から評価された。地区まちづくりは、練馬区まちづくり条例や農の風景育成地区制度などについて事業推進に向けた課題を共有した。大学連携調査研究事業は、7大学に助成を行い、そのほかの活動団体等とともに研究発表会に参加した。
事業 所管課	つながるカレッジねりま、練馬みどりの人材バンク、憩いの森等の区民活動や落ち葉清掃活動の拡充など、各事業を着実に遂行した。また、落ち葉マップの作成や、ねりまの森こどもフェスタと同時開催したクイズラリーの実施など、新たな取組を開始するとともに、各事業の連携により、これまでの取組をさらに発展・充実させることができた。 引き続き、公社が培ってきた経験やノウハウを活かしながら、みどりを守り育てる区民協働のムーブメントの輪が一層拡大していくことを期待する。 まちづくり事業については、担い手の実情に即した丁寧な支援が継続されており、中間支援組織としての役割が果たされている。試行中の大学連携制度も、昨年度から件数が増加している。引き続き、効果的な事業の実施方法の検討に取り組まれない。一方、まちづくりセンターとして事業の成果をどのように活かしていくのかを整理する必要がある。 今後は、重点的に取り組む事業の進捗を踏まえ、長年支援を続けている事業については、団体の自律した取組を高めていくなど、計画的でメリハリのある事業運営の推進に期待する。

事業2	自転車の適正利用事業
取組内容	① 放置自転車対策の推進 ② 利用者サービスの拡充 ③ 自主事業の展開

目標①-1	撤去方法の効率化			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	協議・方針確認	準備	実施
実績	提案・協議	提案・協議・方針確認 ・実施準備	実施 (巡回型誘導の開始)	
団体の達成 状況の評価	—	B	A	
備考	—	撤去台数の減少に対応した運用、体制等の見直しを区と協議。令和7年度から実施	・R8年度に実施予定の巡回型誘導を前倒しで実施 ・誘導員を6駅に集約配置する一方で、車両による巡回型誘導を全駅の放置禁止区域において開始 ・撤去方法の効率化を図りながら、低い放置率(平日午前1.1%)を維持	
目標①-2	買い物自転車利用者への啓発活動			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	継続	継続	継続
実績	実施	継続	継続	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	放置禁止区域と私有地にまたがった駐輪が増加している区域を中心に啓発活動を実施	放置禁止区域が拡大された2駅において、撤去活動開始に先立ち啓発活動を重点的に実施し、撤去活動開始後も継続	

目標①-3	小規模駐車場の設置			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	9施設 (富士見台)	検討	検討
実績	8施設	8施設	8施設 (区との契約締結)	
団体の達成 状況の評価	—	C	B	
備考	—	計画上の富士見台駅北口の設置は中止。同駅他エリアや他駅での検討を行い、区と協議を実施	富士見台駅北口周辺において、令和6年度に検討した候補地とは別の場所での開設を区と協議・検討し、区と土地転貸借契約を締結	
目標①-4	地域との連携			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	取組	取組	取組
実績	5協議会などとの連携	5協議会などとの連携を継続	5協議会などとの連携を継続	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	地域イベント等を通じて、駐車場や放置自転車に関する周知・啓発を実施	地域イベント等を通じて、駐車場や放置自転車に関する周知・啓発を引き続き実施	

目標②-1	DXの推進 窓口決済方法の多様化			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	キャッシュレス決済 利用率の向上	利用率の向上	利用率の向上
実績	PayPay以外のスマホ決済、クレジットカード・交通系ICカード決済の導入	キャッシュレス決済 利用率の向上 (約4割)	キャッシュレス決済 利用率の向上 (約4.7割)	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	5年度の導入当初は約3割、6年度は約4割に向上	導入当初の5年度末3.7割が7年度末で4.7割に向上	
目標②-2	DXの推進 利用手続のWEB化			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	システム導入 現利用者の支払い方法の変更(マイページ)	常時空き施設の利用申請 手続き	定期利用料金の収納方式 の統一(高架下移管8施設)
実績	WEB申請による定期利用 申込みシステム準備	システム導入 マイページの導入準備	マイページの導入 定期利用料金の収納方式 の統一 (高架下移管8施設)	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	- 補欠登録の繰上げによる定期利用申込システムにより、500人超のWEB申請を受領 - マイページは、7年5月の導入を予定	- これまで別の収納方式をとっていた高架下移管8施設について、定期利用料金の収納方式を統一(8年度に予定していた取組を7年度に実施) - 令和7年5月に全定期利用者に対するマイページ利用を開始	

目標②-3	大型自転車等優先・専用置場の拡充			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	拡充	拡充	拡充
実績	拡充	拡充	拡充	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	各施設の利用者特性を勘案し、チャイルドシート付き自転車と大型自転車の専用・優先置場を7施設で拡充	各施設の利用者特性を勘案し、大型自転車の専用・優先置場を4施設で拡充	
目標②-4	電動アシスト自転車用の充電器貸出し			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	7か所	10か所	12か所
実績	設置 4か所	7か所	10か所	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	新規3か所に設置(合計7か所)	新規3か所に設置(合計10か所)	
目標②-5	非常用蓄電装置の配備			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	5か所	7か所	9か所
実績	配備 3か所	5か所	7か所	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	新規2か所に配備(合計5か所)	新規2か所に配備(合計7か所)	

目標③-1	小規模駐車場の設置 ※再掲			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	9施設 (富士見台)	検討	検討
実績	8施設	8施設	8施設	
団体の達成 状況の評価	—	C	B	
備考	—	計画上の富士見台駅北口の設置は中止。同駅他エリアや他駅での検討を行い、区と協議を実施	富士見台駅北口周辺において、令和6年度に検討した候補地とは別の場所での開設を区と協議・検討し、区と土地転貸借契約を締結	
目標③-2	イベント・ホームページを活用した広報			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	継続	継続	継続
実績	実施	継続	継続	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	公社地球温暖化対策室の実施事業に参加し、自転車利用に関する啓発活動を実施	隔月のペースで、練馬警察署等と協働し、自転車盗難防犯キャンペーンに参加 地域主催のイベントに協力	

取組内容の評価(令和6年度)	
団体	令和5年度と同程度の放置率1.2%(平日午前)を維持している。前中期経営計画からの引き続き課題としていた放置自転車対策業務について効率的な運用を進めるため、放置台数の減少に合わせ、即時撤去の継続、作業車両の削減、誘導員の常設個所を縮小する一方で、新たに巡回型誘導の導入を区に提案し、令和7年度から実施することとなった。 自転車駐車場業務においては、利用者の利便性を高めるため、5年度末に導入したスマホや各種カードを利用できるキャッシュレス決済の利用率が昨年度導入当初の約3割から約4割に向上した。また、新たな利用者サービスとして、スマホやパソコンで申請できるWEBによる定期利用申請登録(補欠待機登録者の繰上げ)を開始した。WEB申請の利用率は、約7割に達し、DXの一層の推進を図ることができた。
事業 所管課	中期経営計画を踏まえ、放置自転車対策業務について効率的な運用を進めるため、常駐型誘導・案内業務に加え、新たに巡回型誘導・案内業務を提案し、経費の削減に努めたことを評価する。令和7年度は着実に実施するとともに、引き続き工夫をしながら、事業に取り組まれることを期待する。 自転車駐車場業務においては、区の第3次みどりの風吹くまちビジョン、アクションプランを踏まえたDX推進、大型車等車種の多様化に対応したサービスの拡充などの取組が行われたことを評価する。より一層、公社が培ってきたノウハウを活かし利用者サービスの向上に向け、継続的に事業に取り組まれることを期待する。

取組内容の評価(令和7年度)	
団体	放置自転車対策業務においては、令和6年度と同程度の放置率1.1%(平日午前)を維持している。令和6年度に区に提案した撤去方法等の効率化策について、誘導員の常設配置箇所を15駅から6駅に集約する一方で車両による巡回型誘導を全駅の放置禁止区域において令和7年度に前倒しして開始した。この結果を検証しながら実施することにより、令和8年度以降の誘導員常設配置箇所のさらなる集約化につなげた。その他、5つの自転車対策地域協議会と連携してイベント等の機会を捉えた放置自転車抑制啓発を進めるとともに、警察等と協力しながら自転車利用に関する啓発活動を実施した。 自転車駐車場業務においては、利用者の利便性を高めるため、5年度末に導入したキャッシュレス決済の利用率が導入当初の約3割から約4.7割に向上した。WEBによる定期利用申請については、マイページを段階的に導入し、5月には全定期利用者に対する利用を拡大した。積極的に周知することにより登録者が着実に増加している。富士見台駅北口の小規模駐車場については、令和6年度に検討した候補地とは別の場所での開設について区と協議を進め、土地転貸借契約を締結した。令和8年度当初での工事を予定している。
事業 所管課	放置自転車対策業務においては、駅前放置対策として誘導員の常駐型誘導を集約化する一方、車両による巡回型誘導を実施するなど、撤去方法等の効率化に取り組み、前年度と同程度の放置率を維持したことを評価する。この結果を検証しつつ、業務の効率化を着実に進めるとともに、放置自転車抑制啓発活動等にも引き続き積極的に取り組まれることを期待する。 自転車駐車場業務においては、区の第3次みどりの風吹くまちビジョン、アクションプランを踏まえ、DX推進によるサービスの拡充が着実に進められ、また、買い物自転車対策としての小規模駐車場設置に向けた具体的な取組が行われた。これらの取組は、利用者の利便性の向上や、自転車利用環境の充実に寄与するものと評価する。今後も、より一層、公社が培ってきたノウハウを活かし利用者サービスの向上に向け、継続的に事業に取り組まれることを期待する。 今後は、自転車の適正利用のさらなる推進を図るため、関係機関と連携しながら、今春の法改正の周知や自転車事故防止についても取り組むことを期待する。

事業3	資源循環・可燃ごみ収集事業
取組内容	① 区の業務委託方針に的確に対応する ② 社員の資質の向上と自律した運営を目指す

目標①-1	区の業務委託拡大に備えた事業執行体制の構築			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	随時採用、特例採用の 実施	随時採用、特例採用の 実施	随時採用、特例採用の 実施
実績	収集拡大に合わせた社員 を確保するため随時採 用、特例採用の実施	随時採用、特例採用の 実施	随時採用、特例採用の 実施	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	特例採用に加え、新たに開 始した随時採用により9名を 採用し、年度内の欠員を解消	随時採用により26名、特例採 用により3名の資源循環推進 員を採用	
目標①-2	管理運営体制の見直し			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	企画調整係の設置・ 課題検討	課題検討・ 見直し	課題検討・ 見直し
実績	プロジェクトチームの設置	企画調整係の設置 作業グループ別 マニュアルの整備 研修計画の策定	安全パトロール実施方法 検討 会社創りプロジェクト始動 研修実施	
団体の達成 状況の評価	—	A	B	
備考	—	・所内に企画調整係を新設 ・各作業グループに応じた マニュアルを整備、マ ニュアルの活用を含めた 体系的な研修計画を策定 (7年度に予定していた 作業グループ別の6つの マニュアルを6年度に整備)	・作業の安全性を高めるため 「安全パトロール」の課題を 整理し、見直し検討 ・働きやすい職場環境と公社 の自律した運営に向け「会 社創りプロジェクト」を始動 ・研修計画による研修の実施 ・新人社員等の育成のため のOJT計画の検討・試行	

目標②-1	処遇改善を行い、キャリア形成を活かす			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	検証・一部実施	実施	実施後の検証
実績	検証	人事・給与制度の改正	人事・給与制度改正施行	
団体の達成 状況の評価	—	B	A	
備考	—	- 人事制度の改正(昇任選考対象年齢の引上げ) - 給与制度の改正(手当増額・業務経験者を対象とした経歴加算)	- 地域手当の新設や手当の増額など、処遇改善を実施 - 特別区清掃業務職員の給与等の引き上げを踏まえた公社業務職給料表の引き上げ改定	

目標②-2	職場リーダーの育成			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	現場作業指導の方針決定	担当の配置 現場指導実施	現場指導の強化
実績	検討	現場作業指導の方針決定	現場指導実施	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	現場作業指導の方針を決定し、主任の主な業務を現場の統括等3つに整理	現場指導を強化するため、予備グループ(決まった組には属さず、休務社員の代替として活動する社員)に担当(主任職)を配置する予定であったが、人材の調整がつかなかったため、各班長等(主任)による現場作業指導を実施	

目標②-3	区への研修派遣が修了した社員からの実務継承			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	派遣修了3名 実務の継承	派遣修了3名 実務の継承	派遣修了3名 実務の継承
実績	派遣修了社員 3名	派遣修了社員3名 報告会の実施・成果の 共有	派遣修了社員3名 成果の共有	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	—	・社内会議等で成果を共有 ・派遣修了者1名は、派遣経 験を活かすため、3所の課 題解決や社員の育成を進 める「企画調整係」に配置	

取組内容の評価（令和6年度）	
団体	可燃ごみ収集の受託拡大への対応など、受託事業全般を着実に履行した。 事業執行体制を確保するため、新たに開始した随時採用により9名を採用し、年度内の欠員を解消した。採用希望者数の減少や社員の退職により令和7年度当初に人員不足が生じたため、早期に対応していく。 センター内に専管組織（企画調整係）を新設し、作業手順書に基づく作業グループ別の6つのマニュアルを、当初令和7年度作成予定を前倒しして作成するとともに、マニュアルの活用を含めた体系的な研修計画を策定した。 公社全体にわたった給与制度や人事制度の改正により、社員の処遇改善を図った。 また、不燃ごみ資源化事業においては、昨年度に引き続き、区の目標値を超える資源化率30%を年間を通して安定して達成した。
事業 所管課	可燃ごみ収集事業や不燃ごみの資源化事業など、着実に委託業務を履行している。 可燃ごみ収集業務の委託拡大に対応するため、随時採用や特例採用を実施するなど事業執行体制の構築を図っている。 公社社員の定着率の向上および業務の中核を担うことができる人材の育成に注力していただきたい。
取組内容の評価（令和7年度）	
団体	可燃ごみ収集の受託拡大への対応など、受託事業全般を着実に履行した。 特例採用や随時採用により資源循環推進員を採用し、事業執行体制の確保に努めた。一方で、他区への転職等による退職者も引き続き発生している。 委託拡大に伴い、資源循環推進員の資質向上と自律した運営を目指す「会社創りプロジェクト」を設置するとともに、OJTによる現場指導などにより人材育成に取り組んだ。 地域手当の新設や手当の増額など、数年に渡り区と調整してきた制度を施行し、処遇の改善を図った。 不燃ごみ資源化事業においては、区の目標値を超える資源化率34%を年間を通して安定して達成した。
事業 所管課	可燃ごみ収集事業や不燃ごみの資源化事業など、着実に委託業務を履行している。 特例採用や随時採用を継続実施しながら、事業執行体制の確保に努めている。 令和7年度から開始した「会社創りプロジェクト」を活用する等、引き続き公社の自律に向けた運営体制の構築に注力していただきたいとともに、今後の区からの業務委託の拡大に備えた人員体制の構築に期待する。

事業4	地球温暖化対策事業
取組内容	① 啓発事業の強化 ② 地域活動団体との協働 ③ 事業者への支援

目標①-1	ホームページの充実(全体構成の整理)			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	検討	実施	運用
実績	検討着手	取組の方向性の整理	実施	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	子どもにも分かりやすいページの作成やトップページからのアクセス性の向上など、取組の方向性を整理	検索サイトからねりエコのHPの自分の知りたい情報ページに直接アクセスした方に、他のページへの閲覧も促すため、関連するページのリンクを表示するなどの工夫を行い、HPを通じた普及啓発の充実に努めた	

目標①-2	ホームページの充実(コンテンツの充実)			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	充実	充実	充実
実績	充実	充実	充実	
団体の達成 状況の評価	—	A	A	
備考	—	・エコ暮らし帳:9項目追加(累計44項目) ・ねり☆エコ動画:6本追加(累計27本) ・区がサントリーホールディングス(株)と進めているペットボトル水平リサイクルについて、内容をより深く理解できるよう、文章と写真に加え動画を作成	・子どもにも分かりやすい解説記事や用語集を新規に作成 ・小中学校の教員等で構成される「練馬区環境教育実施協議会」と情報交換を行い、小学校の環境に関する学習指導案に、ねり☆エコHPの活用が記載される結果となった	

目標①-3	イベントでの啓発の充実			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	充実	充実	充実
実績	イベント開催・参加	ねりま環境まなびフェスタ 他イベントの開催・参加	ねりま環境まなびフェスタ 他イベントの開催・参加	
団体の達成 状況の評価	—	A	B	
備考	—	・ねりま環境まなびフェスタでは新規出展者の増や会場の使い方の工夫により、内容を充実。来場者数は事業を開始した4年度の約1,000名から約1,700名まで増加 ・四季の香ローズガーデンオータムフェスティバルに初出展し、ねり☆エコの活動をPR	・ねりま環境まなびフェスタの来場者は約1,700名、昨年と同水準を維持 ・ねりま観光案内所も会場として使用し回遊性が向上 ・武蔵大学が出展することで充実 ・スタート！エコライフは衆議院選挙で開催中止になったが、代替としてねりエコのHPでパネル展示の内容を紹介	
目標①-4	こどもエコ・コンクールの充実			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	展示・活用方法の 検討・実施	充実	充実
実績	展示会会場増 展示効果検証 冊子版の小中学校への配布	展示会場12か所 (1か所増) イベントのテーマに合わせた作品の展示	展示会場18か所 (6か所増)	
団体の達成 状況の評価	—	A	A	
備考	—	・こどもエコ・コンクールの応募者数増(約400増)、高い水準を維持 ・新たに四季の香ローズガーデンオータムフェスティバルでも、こどもエコ・コンクールの作品を展示 ・展示方法では、環境月間パネル展は講演会の内容に合わせて「海と環境」、四季の香ローズガーデンは会場に合わせて「ねりまのみどり」をテーマにした作品を選別して展示するなど工夫をしながら実施	・こどもエコ・コンクールの応募者数は昨年度に引き続き2,000作品を超える多数の応募があった ・展示場所は、新たに図書館(2か所)、リサイクルセンター(4か所)を加え、充実を図った。	

目標②-1	地域活動団体との協働			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	活動の場の提供や 団体情報の発信	継続	継続
実績	活動の場の提供や団体情 報の発信	イベントで団体活動を 紹介する場を提供 ホームページで団体 活動を紹介	イベントで団体活動を 紹介する場を提供 ホームページで団体 活動を紹介	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	—	—	
目標②-2	総合的な環境学習拠点との連携			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	検討	調整	実施
実績	検討	検討	調整	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	リサイクルセンターの総合学 習拠点に向けた検討会に参 加	エココンクルの展示など、リ サイクルセンターとの連携を 継続	
目標③-1	事業者の取組の支援			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	ホームページや講演会等 による情報発信の強化	継続	継続
実績	事業者向け支援の検討	新たに東京都HTT実践推 進ナビゲーター事業と連 携した啓発を開始	東京都HTT実践推進ナビ ゲーター事業と連携した 啓発を継続	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	—	東京都HTT実践推進ナビ ゲーター事業との連携を継続 し、東京商工会議所練馬支 部の商業分科会で情報提供	

取組内容の評価(令和6年度)	
団体	ねり☆エコホームページの課題となっている、コンテンツごとのアクセス数の大きな差、見たい記事へのアクセスのしづらさなどの解決に向け、取組の方向性を取りまとめた。また、区がサントリーホールディングス㈱と協定を締結して進めているペットボトルの水平リサイクルについて、内容がより深く理解できるように、文章と写真に加え動画を作成した。 ねりま環境まなびフェスタは、事業開始以来、年々来場者が増加し、環境イベントとして定着してきている。また、新たに四季の香ローズガーデンオータムフェスティバルに参加し、みどりのまちづくりセンターと連携してパネル展示を行った。 こどもエコ・コンクールの応募者数は、高い水準を維持している。作品の展示に当たっては、入賞作品に加え、環境月間パネル展は講演会の内容に合わせて「海と環境」、四季の香ローズガーデンは会場に合わせて「ねりまのみどり」をテーマにした作品を選別するなど工夫し、環境に対する関心を高めることにつなげた。 総合的な環境学習拠点との連携では、区が実施している検討会に参加するとともに、リサイクルセンターとの連携を進めた。 事業者支援の取組の支援では、東京都HTT実践ナビゲーター事業と連携することで、区内事業者団体に幅広い支援の情報を提供することができた。
事業所管課	3回目の開催を迎えた「ねりま環境まなびフェスタ」では、参加団体数・参加者数ともに増加し、事業の定着が進んでいるなど、環境学習・普及啓発の充実が図られている。その他の事業も計画どおり進められていた。 引き続き、区民・事業者・区・教育委員会など様々な会員で構成されている特性を活かし、効果的な啓発や支援を展開していくことを期待する。 とりわけ、事業者の取組の促進にあたり、脱炭素の必要性や支援策などについて、会員である区内産業団体と連携し、情報発信を強化することを期待する。
取組内容の評価(令和7年度)	
団体	ねり☆エコHPは、子どもにも分かりやすい地球温暖化の解説記事や用語集を新たに作成した。「練馬区環境教育実施協議会」と情報交換を行い、小学校の環境に関する学習指導案にねり☆エコHPの活用が記載された。 スタート！エコライフは衆議院選挙で開催中止になったが、代替として展示内容や団体活動の紹介をねり☆エコHPを活用してWEB開催とした。 こどもエコ・コンクールは引き続き多数の応募があり、応募作品のレベルも上がってきていることから入賞枠を拡大し、多くの子どもたちを表彰した。また、今回は新たに図書館2館、リサイクルセンター4館で作品展示を行い、啓発や連携ができた。 クール・ネット東京などと情報交換を行い、事業者の取組の支援方法について検討を進めた。
事業所管課	ホームページの構成整理・コンテンツの充実、こどもエコ・コンクールの作品展示場所の拡充など、子ども・子育て世代をはじめ、幅広い世代に向けた情報発信の強化が図られている。 引き続き、様々な会員で構成されている特性を活かし、区民・事業者の行動変容につながる効果的な啓発や支援を展開していくことを期待する。

財務・組織	経営基盤
取組内容	① 組織を強くする ② 人を活かす

目標①-1	業務拡大に伴うマネジメント体制の整備			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	方針の検討	関係機関との 調整および準備	実施
実績	—	組織体制強化、 事務室拡充の検討	組織体制強化、 事務室拡充の準備	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	—	—	
目標①-2	DXの推進			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	現状把握 課題整理	準備	実施
実績	ITインフラ 運営	会計システム、就業管理 システムの更新・業務の効 率化 システム・ネットワーク等の 現状調査・課題整理	例規集のシステム化、 年末調整入力システムの 試行導入	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	—	—	
目標①-3	公益法人制度改革への対応			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	調査・研究	検討	検討
実績	—	制度改正に伴う 影響・課題の整理	「中期的収支均衡」の 仕組みの導入準備	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	—	—	

目標②-1	人事給与制度の見直し			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	人事制度の改正・実施	給与制度の改正・実施	検証
実績	検討 区と協議	人事制度(定年延長)の 改正・実施 給与制度の一部改正	給与制度の改正・実施	
団体の達成 状況の評価	—	A	B	
備考	—	7年度に予定していた給与制 度の一部改正	—	
目標②-2	人材育成の推進			
年度別 取組計画	5年度	6年度	7年度	8年度
	—	研修実施 人材育成計画の検証、 課題整理	研修実施 計画改定準備	研修実施 計画改定
実績	研修実施	研修実施 計画の検証・課題整理	研修実施 計画素案作成	
団体の達成 状況の評価	—	B	B	
備考	—	—	—	

取組内容の評価(令和6年度)	
団体	業務拡大に伴う組織体制(人事管理(適正配置、人事異動、採用、育成)、組織間連携)の強化、社員増による事務室スペース拡充について検討した。会計システム・就業管理システムを更新し、操作性の向上と事務の効率化(決算事務の改善、人事管理のデジタル化)に取り組んだ。デジタル活用による業務効率化(起案文書等のペーパーレス化、Wi-Fi環境の整備、省力化等)に向けて、システムやネットワーク等の現状調査・課題の整理を行った。 人事・給与制度は区と協議の上、見直しを進めた。計画どおり定年延長に関する制度を見直すともに、給与制度についても、体系(地域手当の創設等)を見直し、令和7年4月の施行に向けた規定の改正を行った。 研修は計画どおり実施するとともに、今後の人材育成計画改正に向けた研修体系の見直しに着手するため、社員からのヒアリングを行うなど、課題の洗い出しと整理を行った。
団体 所管課	経営計画に基づき、取り組みが進めている。公社の業務が拡大し、社員の増加が見込まれる中で、人事管理、事業戦略、DXの推進など、将来を見据えた組織全体マネジメント体制の強化を着実に進められたい。また、公益法人制度の改正内容を踏まえ、ガバナンスの強化に努められたい。

取組内容の評価(令和7年度)	
団体	公社全体の人事に関する体制を強化するため、給与・人事を担当する係の設置に向けた準備を進めるとともに、社員増加に伴う良好な執務環境を確保するため、事務室の移転・拡大に向けた準備を行った。 デジタルの活用による業務の改善・効率化を図るため、例規集の電子システム化、クラウドを活用した年末調整入力の実験導入を行った。 新「公益認定当ガイドライン」、「公益法人会計基準」等を踏まえ、令和7年度決算から「中期的収支均衡」の仕組みを導入する準備を進めた。 給与制度(地域手当の創出等)の改正、研修計画に基づく研修を実施するとともに、社員の年齢構成や配置状況、将来的な人員構成を見据え、次期人材育成計画の素案を作成した。 以上のことから、令和7年度の本項目については概ね計画どおりの成果となった。
事業 所管課	経営計画に基づき、着実に取り組みが進められている。慢性的な人手不足が社会問題化する中で、人材の採用、育成、定着に関する対策、デジタルを活用した生産性の向上など、強化してきた総務部門を中心に、引き続き、創意工夫をしながら取り組むことを期待する。